OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	岡島昭浩先生をお送りする
Author(s)	岸本, 恵実
Citation	語文. 2026, 124-125, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/103846
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

岡島昭浩先生をお送りする

岸本恵実

二〇二五年春から夏にかけて、『国語便覧』が思いがけずブームになりました。高校の副教材として長く親しまれてきた『国語便覧』の情報量の豊かさ、わかりやすさ、そして良心的な価格がＳＮＳを中心に注目を集め、急速に販売部数を伸ばしたようです。

このニュースに接して、岡島先生のことを思い出したのは筆者だけではないと思います。先生は少なくとも五年以上前から、ほぼ毎年、日本文学・日本語史学研究室の学生、なかでも学部生に対して、『国語便覧』を手にとって目を通してみるよう勧めてこられました。今回、『国語便覧』をあらためて手にした人たちの関心と、先生が学生に期待されたお考えとは必ずしも同じではないにせよ、学問への入り口は中学校・高校の段階ですでに開かれている、という先生のメッセージが、別の経路を通じて多くの人に届いた出来事だったのではないかと思います。先生は、日常に連続する学びの面白さを、ことばの研究を通して私たちに伝えてこられました。

『国語便覧』をはるかにさかのぼる例として、先生が早くから取り組んでこられたインターネット上での発信と、「青空文庫」にもふれたいと思います。一九九七年開設のインターネット図書館「青空文庫」の成立については、野口英司編著『インターネット図書館 青空文庫』（二〇〇五年、はる書房。第一章「青空文庫ものがたり　インターネット図書館の開設から今日まで」は「青空文庫」掲載）に詳しく書かれています。これによりますと岡島先生が、ご自身のウェブサイトで公開しておられた中島敦「山月記」などのテキストの提供を快諾されたことが、「青空文庫」開設の直接のきっかけになったそうです。

一九九〇年代後半、先生が作られていたサイトは、国語学・日本文学の枠を超えて広く知られていました。大学院生であった筆者も、ひそかにその恩恵にあずかっていた一人です。先生はこのころから、すでに時代の先を歩んでおられたのだと思います。

先生のご研究は、日本漢字音史、日本語研究史、方言史、語彙史、資料論など、多岐にわたっています。さらに、学内では懐徳堂記念会など多くの職務を担われ、学外では国語語彙史研究会の庶務主任、日本語学会の各種委員などを長年にわたって務めてこられました。

一方、『国語便覧』再読へのご助言や「青空文庫」立ち上げに際してのご支援、先生の情報量豊かなウェブサイトの活動などは、業績一覧には一部しか表れていません。しかし、このような明記されない多くのご活動があることは、先生がご自身の知識と情報を惜しみなく、必要とする人々に開いてこられた証であると思います。そして、この輯に並ぶ元指導学生の方々のご寄稿は、教育者としての先生のご尽力の賜物にほかなりません。

末尾になりましたが、先生が大阪大学の公式サイト（「大阪大学大学院人文学研究科 日本文学・日本語史学」）にお寄せになっている学生へのメッセージを、後に続く私たちが引き継いでいきたいという思いをこめて、以下に引用いたします。

過去から現代まで伝わって来たものを、我々は後世に伝えて行けるだろうかと不安になることがある。見出した資料が複写されることもなく天下の孤本として存在しているのを見たり、長く閲覧する人の居なかった書物であれば他所にあろうとなかろうと棄ててよいという意見を聞いたりする時である。文学研究に志す人も、よいものだけ伝えればよいと思うのではなく、多くの情報を伝えるよう考えて欲しい。

先生のご健勝とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げ、拙文のむすびとさせていただきます。



岡島　昭浩先生近影